

令和 6 年度

# リウマチ月間リウマチ講演会

## 多職種連携チームで届ける最適なリウマチ医療 プログラム・抄録集

日時：令和 6 年 6 月 2 日（日） 会場：都市センターホテル

形式：ハイブリッド開催（会場開催及び Web 配信）

実行委員長：富田 哲也 公益財団法人日本リウマチ財団常務理事  
森ノ宮医療大学大学院保健医療学 教授

主催：公益財団法人日本リウマチ財団  
後援：厚生労働省  
一般社団法人日本リウマチ学会  
公益社団法人日本整形外科学会  
一般社団法人日本臨床リウマチ学会  
公益社団法人日本リハビリテーション医学会  
公益社団法人日本医師会  
公益社団法人日本薬剤師会  
一般社団法人日本病院薬剤師会  
全国保健師長会  
公益社団法人日本看護協会  
公益社団法人日本理学療法士協会  
公益社団法人全国病院理学療法協会  
一般社団法人日本作業療法士協会  
公益社団法人日本介護福祉士会  
一般社団法人全国訪問看護事業協会  
公益社団法人日本リウマチ友の会



Japan Rheumatism Foundation

公益財団法人

日本リウマチ財団

対象者：一般参加者、患者様とご家族。

医療関係者の方も参加可能です（単位対象外）。

会場開催日時：

令和6年6月2日（日）12:00～14:10

オンデマンド配信期間：

令和6年6月10日（月）9:00～6月30日（日）17:00

視聴ページ URL：

<https://rheuma2024.net/viewing.html>

# 実行委員長挨拶



令和6年度リウマチ月間リウマチ講演会実行委員会  
実行委員長 富田 哲也  
公益財団法人日本リウマチ財団常務理事・森ノ宮医療大学大学院保健医療学教授

皆様こんにちは。本年6月2日(日曜日)に開催される令和6年度日本リウマチ財団「リウマチ月間リウマチ講演会」の実行委員長を拝命しております富田哲也でございます。日頃より当財団の活動にご賛同ご支援いただきありがとうございます。今年度はコロナが5類に移行され対面形式の学術集会・研究会が増えてきておりますが、参加される皆さまの利便性を考慮し、昨年同様対面とWebを併せた「ハイブリッド方式」で開催させていただきます。

年初より我が国は大きな災害に見舞われました。能登半島の震災で被災された皆様に、心よりお悔み申し上げます。この悲劇により失われた多くの命、そして被災された方々の心情に深い哀悼の意を捧げます。一日も早い復興と被災者の皆様の安全と健康をお祈り申し上げます。自然災害の破壊力には限りがありません。しかし、この困難な状況においても、これまでの経験を基に日頃より備え、その上で、地域の結束と助け合いの精神が輝き、被災者の方々が支え合いながら前向きに歩いていく姿勢は、希望を感じさせてくれます。災害の多い日本では今後もいつどこで自然災害に見舞われるかわかりません。被災地域のリウマチ患者様が少しでも早く安心して生活を取り戻せるよう、我々はどうのような支援・協力ができるのかを本講演会では、過去の自然災害時の経験から学びたいと考えております。

当財団としては、医師のみならずリウマチ登録専門職制度を介した医療連携による患者支援の充実に力を入れています。今年度のリウマチ月間リウマチ講演会のメインテーマを「多職種連携チームで届ける最適なりウマチ医療」といたしました。例年同様に患者様やご家族様、一般の皆様を対象に特別講演も予定しております。また今年は、関節リウマチはもとよりリウマチ性疾患として乾癬性関節炎、強直性脊椎炎、掌蹠膿疱症性骨関節炎も取り上げ各患者会の代表の皆様にもご登壇いただく予定です。

臨床現場ではリウマチ患者様の高齢化が進んでおります。高齢化をキーワードとした医療従事者向けの講演会・研修会も、充実した内容で組むことができました。これらの一部は講演後もオンデマンド形式で一定期間視聴できるようにいたします。リウマチ医療は医師だけでは対応することはできず、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士など、多くのメディカルスタッフに支えられています。当財団はこれら専門職を対象とした登録制度を作り、長年それぞれのエキスパートの育成を支援してきました。今回の講演会も、既に当財団リウマチ登録専門職となられている皆様を含めた多くの医療従事者に興味を持っていただける内容になったと自負しております。

最後になりましたが、今年度のリウマチ月間リウマチ講演会が、参加される全ての皆様にとって有意義な会となるために、皆様方の多大なご理解とご協力を賜りたく、ここにお願ひ申し上げます。次第です。

# プログラム

## 患者様とご家族・医療関係者対象

6月2日(日) 第1会場(5階オリオン)

式典・授賞式(12:00～12:40)

会場 **オンデ**

式典

挨拶	日本リウマチ財団 理事長	川合 眞一
来賓祝辞	厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課 課長 衆議院議員	西嶋 康浩 田畑 裕明

授賞式

日本リウマチ財団リウマチ医学賞

藤尾 圭志 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギー・リウマチ学  
教授

塩川美奈子・膠原病研究奨励賞

白柏 魅怜 京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科 特定病院助教

日本リウマチ財団リウマチ福祉賞

馬渡 徳子 社会福祉法人洋和会ほのみこども園 ソーシャルワーカー

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰(看護師)

横山 里子 青木内科クリニック

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰(薬剤師)

眞部 実穂 京都きづ川病院医療技術部薬剤部門 主任補佐

日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰(理学療法士)

島原 範芳 道後温泉病院リウマチセンターリハビリテーション科  
副科長兼係長

リウマチ月間特別講演(12:40～14:10)

会場 **オンデ**

座長 富田 哲也 日本リウマチ財団 常務理事

「関節リウマチとロコモティブシンドローム」

田中 栄 東京大学大学院医学系研究科整形外科学 教授

「リウマチ性疾患患者会について」

門永登志栄 日本リウマチ友の会 会長

添川 雅之 日本乾癬患者連合会 会長

鹽野 敬彦 日本AS友の会 会長

大竹 清美 掌蹠膿疱症患者会 PPP コミュニティ 会長

\* 会場 会場開催 **オンデ** オンデマンド配信

## 関節リウマチとロコモティブシンドローム

東京大学大学院医学系研究科整形外科学 教授

田中 栄

WHOの統計によると、2022年の日本の平均寿命は84.3歳で世界1位である。同時に高齢化率も過去にないレベルで上昇しており、総務省の発表によると、2023年9月15日時点で65歳以上の高齢者は3623万人で総人口に占める割合は29.1%、75歳以上の超高齢者が16.1%、80歳以上が10.1%といずれも過去最高レベルになった。「健康寿命」は「日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間」と定義され、健康寿命と平均寿命との差をいかにして小さくしていくかが超高齢化を迎えたわが国における重要な課題である。厚生労働省による2022年(令和4年)の国民生活基礎調査において、65歳以上の要介護者等の介護が必要となった原因の中で関節リウマチや変形性関節症などの関節疾患が10.2%を占めることが報告されている。日本整形外科学会では、介護が必要になる前段階のことを「ロコモティブシンドローム(ロコモ)」と名づけて、この段階で適切な対策をおこなうことを提唱している。

関節リウマチ(RA)は全身の関節炎を特徴とする自己免疫性炎症性疾患である。炎症は主として関節滑膜に生じ、関節腫脹や疼痛の原因となるが、疾患が進行すると著明な関節破壊に到る。RA患者の全国データベースであるNinJaによると、2020年時点でのコホート全体の平均年齢は67.3歳であり、10年前と比較して5歳近く高くなっている。また高齢RA患者の割合も高まっており、2020年のデータでは75歳以上の後期高齢者が全体の約1/3を占めており、80歳以上の患者も16.2%と非常に高い。高齢になるほどロコモの頻度は高くなるため、高齢RA患者が増加している状況において、運動器にダメージのあるRA患者が高齢化すればロコモのリスクはさらに高まることが予測される。我々はNinJaデータベースを用いて、ロコモ25を用いてRA患者ではロコモの有病率が極めて高いことを明らかにした。この背景にはRAが免疫の暴走によって生じる炎症性・消耗性疾患であること、そして早期から関節破壊を生じることが関係している。したがって早期からの適切な薬物治療による疾患活動性の制御と関節破壊の予防がRA患者のロコモ予防に重要である。

## 日本リウマチ友の会

会長 門永 登志栄

1960年、伊東温泉病院の患者からの声でリウマチ患者の友の会づくりとして、「伊東リウマチ友の会」(会員数152名)を発足し、1970年社団法人に認可され、2012年(平成24年)4月より公益社団法人となり今年創立64年となる。

リウマチに関する正しい知識を広め、リウマチ対策の確立と推進を図り、リウマチ性疾患を有する者の福祉の向上に寄与することを目的としている。

会員は約8,000人、10～80歳代で、関節リウマチ・悪性関節リウマチ・若年性特発性関節炎などの患者、家族、リウマチ専門医、医療関係者、ボランティアなどで構成されている。

全国に支部があり、公開講演会・相談会・交流会を開催し、機関誌や支部報も年数回発行し、患者同士の場を設け「関節リウマチ」について学び、公益法人として啓発の活動を続けている。

## 日本乾癬患者連合会

会長 添川 雅之

乾癬は免疫介在性の皮膚疾患であるが、皮膚症状のみならず約10%の患者に関節症状がみられ、日本では3～5万人の乾癬性関節炎患者(以下PsA患者)がいるとされている。

生物学的製剤が治療薬として承認される以前は、患者は疼痛を抱えつつも納得できる治療に至れず、医療機関を転々とするケースも稀ではなかった。また重症患者では関節の癒着や変形を来す者もいた。

このような状況を重く受け止め、海外では既に卓効を示していた生物学的製剤の日本における早期承認を求め、全国の乾癬患者会が署名活動を行い、僅か1年で53,964筆もの署名を集め、関連学会の協力も得て翌年に見事に承認された。これによりPsA患者に福音がもたらされ治療環境は大きく変わった。

しかし高価な治療薬は患者にとって負担が重く、日本乾癬患者連合会はPsAの指定難病に向けて厚生労働省に請願を行なったが疫学データや重症度分類等の不足が指摘され、現在のところ指定難病には至っていない。

治療は進歩したが、未だ正しい治療に辿り着けない患者や、痛みや病状の進行から免れられない患者も存在し、今後、医療者、患者団体、製薬企業等が更なる協力をし、共に課題と向き合い患者の幸せに繋げることを目指していきたいと考えている。

## 日本 AS 友の会

会長 鹽野 敬彦

日本 AS 友の会は強直性脊椎炎（指定難病 271）の患者会で、2024 年に設立 33 年を迎えます。会員数は約 400 名で、年 1 回ずつの総会、支部会や機関誌を通じて、最新医療情報の提供や会員間の親睦を図っています。また、脊椎関節炎患者会の国際的ネットワークである ASIF メンバーとして隔年開催の総会（2024 年はコロンビアにて開催）に参加し、主に疾患啓発活動に関する情報交換を行っています。

現在、ファイザー社と日本脊椎関節炎学会からの研究助成を頂き、実地医と脊椎関節炎エキスパートによる適切な体軸性脊椎関節炎診療・教育ネットワークの構築プログラムを推進。医療職の皆様には疾患啓発プログラム内容に専念頂き、非医療職である患者会がご視聴医師の募集、配信などを担当し、多職種間の連携により、エキスパートからかかりつけ医への疾患啓発を加速しています。

また、2020 年から毎年、世界希少・難治性疾患の日に関連し「治療と就労の両立支援」に関する Web セミナーを実施。患者、支援者、人事職、人材サービス職などの多職種を巻き込み、就学・就労の悩みを抱える患者の課題の把握と解決策の模索に取り組んでいます。

## 掌蹠膿疱症患者会 PPP コミュニティ

会長 大竹 清美

「掌蹠膿疱症患者会 PPP コミュニティ」とは掌蹠膿疱症（PPP）と掌蹠膿疱症性骨関節炎（PAO）の患者とその家族、その活動をサポートする皮膚科を中心にリウマチ科や他科連携などの医療スタッフによる患者会です。

手のひらと足の裏が膿疱だらけになり痛みで歩けなかったり、手を使う仕事やスポーツが出来なくなったり、胸の骨・背骨・腰骨に骨髄炎が起り突然に激痛が始まるのです。

発症してからこの疾患と診断されるまでに何軒もの医療機関を廻ったり、自らインターネットで病名に辿り着いて受診する患者も多くいます。1 人で抱え込み不安に思う患者が日本に数多くいることを知り患者自身がこの疾患について正しい知識を持ち勇気と希望をもって治療に立ち向う為の情報発信をしたいとの思いから、2020 年 9 月 1 日設立いたしました。2022 年には大阪支部を創設しました。弊会は「PPP Community Mission Statement」を行動指針とし日々活動しています。

私共患者会は他科との連携が必須なこの病気を分かって下さる医師が全国の患者に寄り添って治療して下さいる事を切に願っています。

年 4 回、皮膚科、他科の先生方にご講演を賜り、最新の治療法や QoL 向上の為の勉強をいたしております。ご参加頂けます先生、ご連絡をお待ち申し上げます。

E-mail : [ppp.community@gmail.com](mailto:ppp.community@gmail.com) URL : <https://ppp-community.com>

# 受賞者の研究題目・功績

## 【令和6年度日本リウマチ財団リウマチ医学賞】

日本国内のリウマチ研究の発展、進歩に大きく寄与する可能性を有する独創的研究に対して贈られる賞です。

**藤尾 圭志** 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギー・リウマチ学 教授  
研究題目：機能ゲノムコホート解析による自己免疫疾患の病態解明

## 【令和6年度塩川美奈子・膠原病研究奨励賞】

膠原病と闘い、膠原病に苦しみ、薬石効なく亡くなられた故塩川美奈子様ご本人およびご遺族の意向により創設された賞です。

**白柏 魅怜** 京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科 特定病院助教  
研究題目：ANCA 関連血管炎を鼻腔細菌叢と免疫細胞で再分類する

## 【令和6年度日本リウマチ財団リウマチ福祉賞】

リウマチ性疾患に悩む患者の方々に対して、永年に亘る社会的救済活動を通じて、その福祉向上に著しく貢献した方に贈られる賞です。

**馬渡 徳子** 社会福祉法人洋和会ほのみこども園 ソーシャルワーカー

## 【令和6年度日本リウマチ財団リウマチ専門職表彰】

リウマチ専門職として、リウマチ性疾患へ対する医療・ケアの向上に大きく貢献した方々を表彰するものです。

看護師

**横山 里子** 青木内科クリニック

活動実績：関節リウマチ患者とのコミュニケーションを重視し、医師や医療スタッフと共に患者に寄り添い続ける。また関節リウマチ患者で見落とされがちな足趾の不調や病変に対するフットケアの実践と普及活動の実践

薬剤師

**眞部 実穂** 京都きづ川病院医療技術部薬剤部門 主任補佐

活動実績：関節リウマチ患者の服薬アドヒアランス改善に向けた薬剤管理と服薬アドヒアランスに影響する因子の検討

理学療法士

**島原 範芳** 道後温泉病院リウマチセンターリハビリテーション科 副科長兼係長

活動実績：リウマチ性疾患のリハビリテーション（理学療法、関連する研究及び論文発表・養成校の講義・地域住民への講演会・人材育成）等

---

## 公益財団法人日本リウマチ財団

〒105-0004 東京都港区新橋 5-8-11

新橋エンタービル 11 階

TEL：03-6452-9030・FAX：03-6452-9031

E-mail：jrf@rheuma-net.or.jp

URL：https://www.rheuma-net.or.jp/